

## 地域発 元気づくり支援金（令和6年度実施分）の 上田地域優良事例の表彰式を開催します！

令和6年度に「地域発 元気づくり支援金」を活用して実施された25事業の中から、着眼点や他地域への波及効果などが特に優れ、多くの皆様に御紹介したい2事業を優良事例として選定しました。

また、優良事例の紹介を通じて地域づくりに取り組む機運を醸成し、地域の元気づくりを促進するため、優良事例の表彰式を開催します。

### 1 選定事業

区分	事業名	事業実施主体
優良事例 (知事表彰)	ふくろうの里「共に創る学びの場」創造事業	地球クラブ（青木村）
優良事例 (上田地域振興局長表彰)	商店街こそが観光資源 まち学校原町一番街本校開校 先人を生かした中心商店街の全国発信から観光客誘致に向けて	商店街振興組合 うえだ原町一番街商店会（上田市）

○事業の概要及び選定のポイント等は別紙をご覧ください。

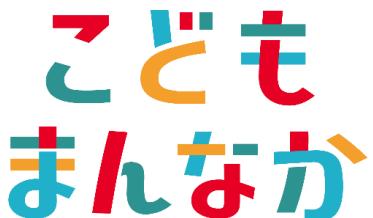
○事例の選定にあたっては、上田地域「地域発 元気づくり支援金」事業選定会議構成員から意見をいただきました。

＜優良事例選定の主なポイント＞

- ◆地域のニーズを的確に捉え、地域の元気づくり創出効果が大きいこと
- ◆実施方法などに、他にはない創意工夫があり、モデル性が高いこと
- ◆他の地域で実施した際も同様の効果が期待できるなど、高い波及効果があること

### 2 表彰式の日程

- (1) 開催日時：令和7年12月18日（木） 13:30～14:20
- (2) 会 場：上田合同庁舎 6階 講堂
- (3) 内 容
  - ア 表彰
    - イ 事例発表（知事表彰、局長表彰）
    - ウ 記念撮影
  - （4）その他の どなたでも参加いただけますので、是非お越しください。



みんなでつくろう!こども・子育てに優しい信州

上田地域振興局 企画振興課 杉浦、酒本  
電 話 0268-25-7112(直通)  
F A X 0268-25-7115  
E-mail [uedachi-kikaku@pref.nagano.lg.jp](mailto:uedachi-kikaku@pref.nagano.lg.jp)

## ふくろうの里「共に創る学びの場」創造事業

### 取組に至る背景・事業の目的

子どもたちに、豊かな自然の中で多様な人とふれあい、遊びながら人や自然に対する関心や愛着、信頼感を培い「人とつながる力」を育てたいと、青木村当郷塩ノ入地区の約13,000m<sup>2</sup>の遊休荒廃地を「ふくろうの里」と名付けて整備し、30年間にわたり大学生グループの「ふくろううず」とともに自然体験プログラムを企画し活動してきた。

活動を継続していくにあたり、活動拠点の安全性を高めることが必要不可欠であり、また、若い母親たちのアイデアを実現するため、本支援金を活用してソフト・ハードの両面から環境整備を実施した。

### 事業内容

#### ○森の絵本広場

豊かな自然の中で絵本の読み聞かせ等を実施。他のワークショップとも組み合わせ、母親たちの主体的な取組が実施できる環境整備に繋がった。



#### ○子育て講演会・30周年記念講演会

子育て講演会では、遊びの重要性についての講演会を実施。

30周年記念講演では、青木村教育委員会の「生涯学習講座」と共催で実施し、充実した子育てのあり方を若い親たちと学ぶ機会となった。また、地球クラブの歩みも紹介し、子育てをする仲間を増やす機会となった。

#### ○ミニ集会・共育キャンプ

子育ての不安や悩みを共有する場として、フィールドやクラブハウスを使ったミニ集会を実施。また、小学生以下の子どもを中心とした親子キャンプを実施し、多くの親子の参加があった。

#### ○安全確保と活動場所の拡大

フィールドの整備では、豪雨などの自然災害の被害拡大を防止すべく、側溝やフェンスの設置、入口の舗装等を実施したことに加え、雨水の流入を防ぐための土間打ちや芝生はりを実施することで、安全に使用できる面積が拡大した。

また、学生たちのミーティング等で使用してきたクラブハウスの改修の一つとしてエアコンを設置し、夏場でも安心して使用できるようになり、若い母親たちのミニ集会など多様な使用方法が可能になった。

### 事業効果

- ① 0歳から親子で参加する「こまめ」の活動が充実し、参加者が5家族から10家族に増えた。
  - ② クラブハウスのエアコン設置、土間設置等により、森のカフェが安心して行える環境が整った。若い母親が安心して集い、気兼ねなく話し合える場となった。
  - ③ 地球クラブに学校等に居づらさを感じる児童、園児が会員として参加した。今後、更に居場所として広がる可能性がある。
- ①～③の目標達成のために環境整備を予定どおり行うことができ、安心して活動できる場が整った。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

ふくろうの里が整備され「共に創る学びの場」として多くの人が参加できる環境となった。

今後、さらに地域に立脚し、学生と共に多くの人のアイデアを大切にした場づくりを目指したい。また、予想されている地震や、頻発する豪雨等の災害に対する備えをさらに充実させる必要もある。豊かな自然の中で多くの人とふれあいながら、子どもたちの自然や人に対する関心・愛着・信頼を深めていく。変化の大きい時代「人とつながって新しい社会を構築する力」の基礎を培っていくことを目指して地道に活動を続けたい。

**【選定のポイント】** 支援金を活用し拠点の整備等を実施して様々な事業を展開したことで、地域内外の多様な人が集う場となった。今後も拠点を活用して、都市部との交流の場や、若い母親たちの自主的な活動の機会の創出が期待でき、波及性・モデル性がある事業であると考えられる。

団体名：地球クラブ	事業タイプ	(ソフト事業、ハード事業)
連絡先：	事 業 費	3, 951, 511円
HPからお問い合わせください。 <a href="https://chikyu.club/">https://chikyu.club/</a>	支 援 金 額	2, 994, 000円

## 商店街こそが観光資源 まち学校原町一番街本校開校 先人を生かした中心商店街の全国発信から観光客誘致に向けて

### 取組に至る背景・事業の目的

うえだ原町一番街商店会は、歴史文化や地域の特性に光を当てた商店街の誘客を推進してきた。2016年放送のNHK大河ドラマ「真田丸」以降全国区になった上田城の集客を中心商店街に呼び込むための活動として、R4及びR5年度に元気づくり支援金を活用して、様々な活動を実施してきた。

R6年度は、これまで継続してきた取り組みの集大成と位置付け、地元の先人たちに焦点を当て、明治時代に中心市街地にあった「上田街学校」をモチーフに現代版の「まち学校」としてその概念を様々な世代に広め、総合学習の場としての商店街「まち学校」の開校を目指した。

究極の所「まちづくりだ、地域おこしだ、観光誘致だ」などと大上段に構えなくとも、日常の暮らしの中で自然にみんなが地域盛り上げの一員となる様に方向づける。

### 事業内容

- ① 上田の先人22名の偉業を紹介する先人カードの作成  
…カードを集めた枚数に応じて、信州大学とコラボレーションした「先人軍ティー」などを進呈した。
- ② 商店街内全店舗を回遊できる先人カードのスタンプラリークイズラリーの実施
- ③ まち学校うえだ原町一番街本校の開校（本校証の発行）
- ④ 各種まちなか先人講座・文化講座の実施
- ⑤ 商店街活動全体のまち学校化



【まち学校開校式・記念講演】

### 事業効果

各種講座に対する関心度が高く、数多くの参加があり、その勢いは地元の学校の総合学習にまでつながり子どもたちが商店街へ来ることに興味を持ってくれた。

また、商店街の活動の中に総合学習と生涯学習的な要素を入れ、その授業として各店舗や商店街スペースを利用して実施することにより、商店主を含め、まち学校という考え方を受け入れられ「まち学校の開校」という3年間の集大成となった。

事業全体を通じて、各方面の団体との繋がりを深めることができた。その一つとして、上田市教育委員会の実施する先人館事業との協働がすみ今後への期待が高まった。また、商店会と地元学校との繋がりが深まることで、今後も総合学習の場として活用されることが期待される。名所旧跡を見に来ることだけが観光でなく、その町に息づく人々の市政や古いもの、歴史文化を大切にしている人たちの姿勢や心を見に来ることも観光の一端を担うという考え方方が、まちの人達に少しづつ浸透してきた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今後は、商店街を「まち学校」を基本とした商店街事業の展開に完全シフトし地域に必要となる存在を目指す。

また、消費者=生活者という捉え方を持つと共に、地域の子供たちを含めた総合学習並びに生涯学習を含めた発信基地を目指す。令和7年以降は、消費者=生活者=自己実現者=社会実現者という考え方まで広げ、「みんなのしあわせまちの幸せの為に何をすべきか」という大きなテーマに取り組む。そういうことにこの地域全体で取り組んでいるという事を観光誘致、日常の活性化にどうつなげていくか模索していきたい。

**【選定のポイント】** 中心市街地活性化や教育など多方面で成果が見られた。今後の継続的な取組はもとより、まちづくり活動の成功事例として他地域への波及も期待され、長く地域に残っていく取組であると考えられる。

団体名 商店街振興組合 うえだ原町一番街商店会	事業タイプ ソフト事業
連絡先 副理事長 畠中俊哉	事 業 費 3,444,775円
Eメール hatabo2434@gmail.com	支 援 金 額 2,755,000円